

ハコノウチ

設計:石川淳/石川淳建築設計事務所+
石川直子/アトリエきんぎょばち

生活と創作活動の距離感を考える

石川 淳 | Jun Ishikawa

石川直子 | Naoko Ishikawa

敷地条件

幹線道路から5分ほど歩いた先の小さな私設美術館の横にその敷地はある。幅5m、奥行き19mの細長い敷地で、前面道路幅は3.5mほど。

施主は新聞社でグラフィックデザインの仕事を夫、そして銅版画家の妻である。彼らから与えられたプログラムは、妻の銅版画家のアトリエを併設した住宅で、住まいからアトリエへ“通勤する”ように移動することが希望だった。

プログラムから

アトリエには天候に左右されづらい安定した明るさが必要であり、機材や作品の搬入もスムーズにできる必要がある。結果、素直に道路と同レベルに置くこととした。反して、住戸は採光条件の良い上階にするが、高さ制限をクリアし、工事費を抑えるべく木造2階建てのボリュームの中に納める必要がある。

“創作の場と住居の距離感”=“パブリックとプライベートの距離感”をどのようにつくるかが、今回の大きな課題であると感じた。

各室の配置

まず、アトリエ→玄関・ポーチ→リビング→ダイニング→趣味室→寝室と必要各室をパブリック性の高い順番に書き並べ、これらを断面ボリュームの輪郭の中に落とし込むことから空間構成を吟味していった。

玄関・ポーチからは、2階のリビングへ長い階段を上る。アトリエの高い天井高さが故の長い階段だが、創作の場と住居の間にある気分転換の場でもある。

リビングは、ダイニングとテラスに囲まれた谷間にある。そのため制作活動に追われてキッチンまわりが煩雑になっていても、リビングからは見上げになるためスッキリと見せることができる。

テラスは隣家に囲まれた敷地の中で開放性を獲得し、また“プライベートな空”を切り取って施主にプレゼントするための装置として取り入れた。

最もプライベート性を重視すべき寝室は、リビングからさらに階段を下りた先に置き、途中の踊り場には、趣味室や浴室、トイレなどを設けた。

サンタリーは狭い敷地幅の中で広がりある空間とするため、洗面脱衣室・トイレ・浴室を一体の空間とし、置きバスを採用することで、シンプルなワンルーム形式とすることができた。



いしかわ・じゅん——建築家/1966年生まれ。1987年、建築模型屋。1990年、東京理科大学工学部二部建築学科卒業。同年、早川邦彦建築研究室。1993年、インターデザインアソシエイツ。2002年、石川淳建築設計事務所設立。2009年、東京理科大学工学部二部建築学科非常勤講師。2010年、(株)石川淳建築設計事務所へ改組。
いしかわ・なおこ——建築家/1990年、日本大学生産工学部建築工学科卒業。同年、HAN環境建築設計事務所(旧・ウイング建築事務所)。1995年、内藤廣建築設計事務所。1998年、シーラカンスアンドアソシエイツ。2002年、大西直子建築設計事務所アトリエきんぎょばち設立。2011年、石川直子建築設計事務所アトリエきんぎょばちに改称。

1——ダイニングから見る | 2——南面全景 | 3——アトリエ | 4——住居への階段 | 5——洗面・浴室

